





### 「林業の担い手を育成するのは誰?」

山梨県立農林大学校勤務  
**青山 将英**  
(平成10年生物環境学科卒)

昭和40年の3700人台から減少を続け、近年は900人前後で推移しています。また、その多くは、植林や保育を行なう造林事業に従事しており、素材生産に取り組む人は限られていきました。利用可能な人工林を活かすためには、高性能林業機械やICTなどを現場で活用し、実践できる人材の育成が必要なことから、令和元年から丸3年間、調査と検討の日々を過ごしました。

全国的に、戦後から高度経済成長期にかけて植栽された人工林が木材として利用可能になり、各地で国産材を原料とする製材工場等が稼働しています。山梨県にも令和元年に年間10万m<sup>3</sup>の木材を消費する合板工場が稼働し、ここに来て学生時代に耳にした「来るべき国産材時代」を迎えて(?)います。

平成10年3月に大学を卒業し、山梨県庁に就職して24年。思いがけず命じられた仕事が高度な知識と技術を備えた担い手を育成する教育機関の設置でした。県内の林業従事者は、

参考にしたのは、近年設立が相次ぐ林業大学校等でした。これらは、主に道府県により設置され、教育内容を実践的な技術の習得に重点を置いています。就職先も森林組合や林業会社などで働くことを想定しており、我々の構想と一致するものでした。一方、検討の中で、既存の林業系大学から林業の現場に就職することが少ないとの指摘も受けました。私も含め、大学生の多くは、公務員や会社員となることが多く、今後、林業の担い手育成に大学がどの



ように関わっていくのか考へさせて、検討してきた教育機関ですが、県立農業大学校を農林大学校に改称し、森林学科という林業の専門学科を設置して、今春無事に開講しました。私はと言えば、自らが担当した学科の専任講師となり、毎日多忙な日々を送っています。大学時代に学んだことをあれこれ懐かしく思い出しながら、新鮮な気持ちで学生に林業の魅力を伝えています。



### 「異業種転生しました。」

株式会社矢島防水布加工所 勤務  
**矢島 豊**  
(平成12年生物生産学科卒)

研究はもうたくさん、といふ気持ちでした。そうは言つても卒業したら社会人として働くかなければなりません。当時は卒業できるかもわからず、在学中は就職活動なんて全くする余裕がなかったものですから。

その時たまたま、東北大の医学研究科に出向して、いる製薬会社で求人があり、プリオント病研究のお手伝いをすることになりました。その後プリオント病の世界的権威である北本哲之教授に声をかけていただき、大学の職員となりました。再び避けていた研究と、プレッシャーに苛まれつつ、学生の指導や、たった1年でしたが、英國エジンバラ大学に出張する機会もいただきました。いう間に時間が過ぎました。未だに、研究生生活は私に思えぬ進学に協力してくださいました。河東田教授博士課程

私は卒業後、進学の道を選びました。研究者を目指したわけではなく、もう少し実験をしてみたいと思ったのが理由です。指導教官であつた河東田茂義教授に相談すると、地元東北大農学研究科の熊谷忠教授を紹介していただけました。その後修士課程の指導教官であつた日出間純先生に勧められ博士課程に進学したものの、卒業までの3年間は本当にきつかったです。研究に向かない自分の能力の無さを突き付けられ、進学したことを見悔しました。なんとか卒業はしましたが、

鶴窓会の皆様、こんにちは。今回、眞面目に同窓会費を



入 おか果樹農園

代表 岡 勝行(昭和50年園芸学科卒)

〒648-0161 和歌山県伊都郡九度山町入郷 288  
TEL 0736-54-2830 FAX 0736-25-8977  
E-mail katuyuki@oregano.ocn.ne.jp

【主な取扱い商品】

- ・山形牛・米沢牛・国産牛・輸入牛・庄内産豚(桜美豚)・輸入ポーク・国産鶏・銘柄鶏・輸入鶏・ラム類等・自社ハム類・メーカーハム類・贈答用みそ漬・粕漬・オードブル・折詰・弁当・イベント・催事用機器食材

鶴岡の老舗 肉の長南

株式会社 長南牛舖 明治四十年創業

SNSで情報発信しています!

Facebook Instagram

山形県鶴岡市日吉町9-27  
TEL 0235-22-0143 FAX 0235-23-2424

長南 雄太(6代目)(平成28年安全農産物生産学コース卒業)

納めていたためか、寄稿のご依頼を賜りましたので、先生方との思い出を中心振り返ってみました。

私は植物病理学研究室

の出身で、故富樫二郎教

授、故生井恒雄教授にお

世話になりました。指導

教官だった生井先生は、

最も尊敬する恩師です。

退官直後に急逝されてしまい、もう会えないのが悲しいです。:

当時、生井先生は武闘

派?で怖い教授との噂で、

植物病理学を専攻した

かつた私は悩みました(:

富樫先生に付くか?)。し

かし、実際は、研究だけで

なく学生の指導にも熱心

な愛情あふれる先生でした(武闘派は本当だった)。

もちろん、富樫先生も素敵

な先生でした。

病理実習では病害の原

因究明にはまず野外で植

物や環境をよく観察せよ

と教わりました。現場主

義的なこの考え方は今で

も役立っています。そんな

先生方の深謀遠慮か、ただ

の趣味なのか、研究室では

山登りや海釣りなどの野

外活動も多く、仲間と楽しい鶴岡生活を送りました。

結婚式でご祝辞を賜つ

たのも良い思い出です。生

井先生「矢島君は、優

秀な学生で!」(先生!)、先

生?」。アゲてサゲるテク

ニカルな話術で盛り上げ

て頂きました。

卒業後は福島県職員の

研究職として12年間奉職

故では、弊社製造の救命筏が機能し、全員が救助されました。仕事の原動力になるニユースでした。

コロナ禍の他、海外との競合、原材料費の高騰など

の逆風に晒されていますが、慣れ親しんだ農業界を離れたことに悔いはありません。研究活動で培った課題解決力を駆使し、しぶとく生き残っていきたいと思います。

島防水布加工所に入社、現在は代表取締役引き継ぎました。ゴムと布の複合素材から救命筏フランを担う製品を製造しています。筏は「いかだ」と読みますが、「丸太をロープで括ったやつ」ではありません。今年1月に発生したマグロはえ繩漁船の火災事



これが救命筏です！

## 「私、庄内にいます！」

山形県鶴岡市在住

(平成18年生物環境学科卒)

庄内にきて20年近くが

たち、「どうして山形に来たの?」「庄内弁、わがつか?」というやりとりももう数え切れません。最近では工七庄内弁を交えての会話がはずむことも多く、本当にありがたいばかりです。

高校の担任に山形大学農学部を紹介され、パンフレットの河川研究室の調査写真に「先生、これです！」と志望を決めたことをよく覚えています。演習林での実習、レポートを夜通し作成したこと、卒論の合間に購買まで歩いた夜。大学時代を思い出すと、いつも仲間の笑顔があります。4年生では研究室の仲間とひたすら沢を歩き、今思えば「大学にいったらファイールドワークで山や川を歩きたかった」という夢がしつかり叶っていました。河川研究室の大久保先生からは「ルンルン楽しくやりなさい」と言われる一方で、同期には今振り返ってみました。

もネタになつてゐる「遊んでないでちゃんとやつてよ」という名言など、夢に向かう姿勢を教えていただきました。先生の横顔が、今でも支えとなっています。

庄内にいたい!と卒業後も庄内に残り、教員として働く中で大切にしていることが「地域との関わり」です。それは大学時代に「地域から学ぶ」という講義やゼミで庄内の色々な場所に行き、人と出会い、この土地のすばらしさを感じたからだと思います。勤務する庄内農業高校の生徒たちは、農業のこれからや庄内の発展について情熱をもつて学んでいます。その活動一つひとつはとても小さな一歩ですが、



## 鶴岡市農業協同組合

代表理事組合長 佐藤 茂一

〒997-8558 山形県鶴岡市日吉町3-1  
TEL:0235-23-5090/FAX:0235-23-6538  
URL:<https://ja-tsuruoka.or.jp>

地域と共に  
おかげ様で50周年



「大学にいたらファイールドワークで山や川を歩きたかった」という夢がしつかり叶っていました。河川研究室の大久保先生からは「ルンルン楽しくやりなさい」と言われる一方で、同期には今振り返ってみました。

が依頼を賜りましたので、先生方との思い出を中心振り返ってみました。

私は植物病理学研究室の出身で、故富樫二郎教授、故生井恒雄教授にお世話になりました。指導教官だった生井先生は、最も尊敬する恩師です。

退官直後に急逝されてしまい、もう会えないのが悲しいです。:

当時、生井先生は武闘

派?で怖い教授との噂で、

植物病理学を専攻した

かつた私は悩みました(:

富樫先生に付くか?)。し

かし、実際は、研究だけで

なく学生の指導にも熱心

な愛情あふれる先生でした(武闘派は本当だった)。

もちろん、富樫先生も素敵

な先生でした。

病理実習では病害の原

因究明にはまず野外で植

物や環境をよく観察せよ

と教わりました。現場主

義的なこの考え方は今で

も役立っています。そんな

先生方の深謀遠慮か、ただ

の趣味なのか、研究室では

山登りや海釣りなどの野

外活動も多く、仲間と一緒に楽しい鶴岡生活を送りました。



創業以来43年の実績 専門技術者集団 土と水と緑の調和を築く



北海道三祐株式会社

◎私たちは新しい技術で、防災工事に貢献しています。

次々に発生する地震・津波、大噴火そして異常気象による洪水などにより、尊い命が奪われています。災害から人命やインフラを守るために、国を挙げての国土強靭化がスタートします。我が社の技術力が期待されます。

執行役員会長 早坂 武男(山形大学農学部 昭和41年卒)創業者

代表取締役社長 笹浪 圭吾(室蘭工業大学工学部 昭和59年卒)

本 社 : 北海道札幌市北区屯田6条8丁目9-12 TEL(011)773-5121

東北営業所 : 宮城県仙台市青葉区柏木1丁目1-53-201 TEL(022)779-7236

メ ー ル : h.sanyu@dosanyu.co.jp

ホームページ : <http://www.dosanyu.co.jp/>